

～A班 班活動～

テーマ：歴史と文学を訪ねて - 小倉百人一首による文学探訪

日時：6月26日(月) 13:00～14:45

嵐山中之島公園より下流にある東公園を訪ねました。

小倉百人一首は、藤原定家が古今集から続後撰集に至る十種から撰歌されたものです。

嵐山嵯峨野地区には、百人一首の殿堂「時雨殿」を中心にして、五地区に分けて歌碑が建立されています。様々な石の名所から取り寄せた自然石に有名書家が揮毫し、石工が彫ったものです。

ここ東公園には、続後撰集、金葉集、千載集より選ばれた21首の歌碑があります。

○東公園入口にて



訪れた場所



○続後撰集

十番目の勅撰集である続後撰集から選ばれた二首の歌碑があります。



# 99 番：後鳥羽院

「人も愛し人恨めしあじきなく  
世を思ふゆゑにももの物ふ身は」



# 100 番：順徳院

「百敷や古き軒端のしのぶにも  
なほ余りある昔なりけり」

○金葉集

五番目の勅撰集である金葉集から選ばれた五首の歌碑があります。



# 66 : 前大僧正行尊

「もろともにあはれと思え山桜  
花よりほかに知る人もなし」



# 71 番 : 大納言経信

「夕されば門田の稲葉訪れて  
蘆のまる屋に秋風ぞ吹く」

○千歳集

七番目の勅撰集である千歳集から選ばれた十四首の歌碑があります。



# 80 番 : 待賢門院堀河

「ながからむ心も知らず黒髪の  
みだれてけさはものをこそ思へ」



# 81 番 : 後徳大寺左大臣

「ほととぎす鳴きつる方をながむれば  
ただ有明の月ぞ残れる」

○歌碑を見終えて

- ・訪れる人が少なく静かで、桂川のせせらぎを聞きながらくつろげ、心静かに歌を味わうことができました。
- ・小倉百人一首の中には、誰でも好きな「歌」があると思います。その歌を見つけ出すと嵯峨野の風景と歌の風景が重なり、雅な王朝歌人の気分に浸れることでしょう。

(文責:班長)